

# 愛知サークル1 1月例会報告

2020年11月28日(土) 名東小 参加：9名

## I 文学教材の追求

### 1. 「授業の質を高める教材解釈」— 大造じいさんとがん・モチモチの木

初参加の新卒教師を交え、「教材解釈の方法論」を「大造じいさんとがん」で、「教材解釈の実習」を「モチモチの木」で行った。

「問題づくり」では、「言葉の謎」について、どんな言葉に引っかかればいいのか。

・「不思議な言葉」(なくてもいいのに、わざわざ書いてある言葉)

・「異常な言葉」(普通とは違う書き方をしている言葉)

「大問題」づくりは、言動の謎の理由を追求する問題。

・原因の追求「中心人物が、言った(した)原因は？」

・目的の追求「中心人物が、言った(した)目的は？」

さらに、大問題を解決するための証拠となる言葉についての問題をつくる。辞書で言葉の意味を調べ、意味の本質を教材に適用する。辞書で調べた言葉を関係づけて構造図をつくり、大問題を解決する。という、教材解釈のステップを学び直した。

### 2. 「世界一美しいぼくの村」(4年) 解釈

六場面「ヤモがバグマンに帰ってきた話」

⑳㉑㉒の三段落ある場面で、気になる文を見つけて理由を表明し、そこから問題づくりをしていた。

㉑：たった1日いなかっただけなのに、なぜ「世界一美しいぼくの村」というのか？

㉒：ヤモは、なぜそっとつぶやくのか？

㉒：春はまだ先なのに、なぜ白い子羊に「バハール(春)」という名前をつけようと思ったのか？

### 3. 「大造じいさんとがん」(5年) 記録

二人の子どもは問いに対して何かしら答えているし、違う意見を言えるようになってきている。教師は、公開授業ということもあるのか、子どもの発言で軌道修正せずに展開案通りに進めようとしたのではないか。

子どもが受け身的になっている。もっと、子どもからなんでだろうと出してくるようにしたい。

### 4. 「ごんぎつね」(4年) 映像

子どもたちが物語の世界に入っており、全員前向きの座席だが、発言者を見ようとしている子ども多い。だが、発言者に対する反応が教師だけで子どもたちの反応がない。教師は、言葉かけをしているが、授業に参加しない子はどんな気持ちかと、常にアンテナを張るようにしたい。そして、子どもの発言をもとに追求していきたい。

## II 「表現教材」の追求

【合唱】「もみじ」(全校)・【体育】「側転」(全校)

ともに、石井先生の指導の映像で、スモールステップで基本をきちんと入れていく様子が示され、始めと終わりでは子どもが飛躍的に変化を遂げる様子が感動的で大いに勉強になった。

【図工】

「すわる友」「祈る手」(5・6年)

対象をよく見て描くことで、何を発見するか。